

1000 特集「町を知る・聴く・考える」
人目の声 — 選ばれる町となるには—

寄居町在住
外国人数



知

※4月1日現在
令和5年
(2023)
674人
↓
令和8年
(2026)
1190人

寄居の人は
quiet and peaceful
(物静かで穏やか)
近所の人たちも
優しいです。



聴

左から アーロン・タディアーカさん・オーロラ・ケイナさん・アリッサさん (鉢形)

夫のアーロンさんはアメリカから来日して9年、妻・アリッサさんはフィリピンから来日10年。娘が生まれて町の子育て支援課に行ったとき、スマホを使って翻訳し、子育てのことを優しく教えてくれて嬉しかった。寄居の人は、皆さん優しいですね。普段は翻訳機なども使って、コミュニケーションをとっているが、もっと英語表記の案内があるといいと思う。妻の職場の群馬県太田市は、曜日によって色々な言語で対応してくれる日が決まっていて、とても便利。

Side.A 町内ギカイの視点

考

「選ばれる町」になるために

人口増への政策は、今や自治体間の競争となっており、「隣の芝生は青く見える」となりがちだが、寄居町の住民の声を取材していくと、いま目の前にあるものをしっかりと見据え、この町を肯定する声も多い。また、地元愛に関するアンケートによると「そもそも地元自治体の取り組みを知らない」が3割超との結果が。施策の可視化はもちろんだが、町民の琴線に触れる政策づくりが最も重要。住民ニーズを議会がどう正確にキャッチできるか。「聴く・動く」寄居町議会も真価が問われる。

知

地元自治体を実施しているもので無駄だと思うことは何ですか。

そもそも地元自治体の取り組みを知らない

31.8%

(株) 明治安田総合研究所 経済調査部
47 都道府県対象「地元愛に関するアンケート調査」(2024)より 回答数: 4785

聴

たばたひでき 太幡英輝さん (桜沢)

皆野町出身。寄居町の人との縁があり、移住して9年。親子が自然と関わり合える「子育て支援カフェ Yadori (やどり)」を立ち上げた。保育や行政の児童福祉現場の仕事で深刻な家庭と向き合う中、日常的なつながりで支え合う環境の必要性を痛感したことが設立の理由。子どもだけでなく大人も肩の力を抜ける居場所に。余白ある空間での記憶がこの土地への愛着を生み、「将来、また帰ってきたい」と思える循環を目指しています。

取材議員の視点 自ら具現化するマインド(思考)を

行政だけではできないこともある。頼って待つだけでなく、町民自らが具現化する「住民自治」のマインド(思考)が大事。

考

このカフェを
「また帰ってきたい」と
思ってもらえる
場所にしたい。

Yadori



聴

左から まちだか 町田さや香さん すずきひさこ 鈴木久子さん あらい 新井あゆみさん(西部)

全員寄居生まれ。Yotteco でのピラティス教室に参加。寄居駅前が変わったけれど、昔の大型商業施設があった頃のほうがにぎやかで好きだった。寄居町は、夜、食事に行くのと知っている顔にたくさん会えるのは良いところ。子育て環境では、雨の日に子どもが遊べる場所がないので、あるとうれしいです。

(関連記事 Side.B P.3)

聴

ゆざわたかゆき 湯澤隆行さん (鉢形)

寄居町に住んで37年。週末はテニスを楽しむ。寄居町は自然が多く、災害が無くて住みやすいけれど、以前と比べると活気がない気がする。町外に挨拶に行く時などに、寄居町を自慢できる町の名産やお土産があると良いですね。企業誘致も大事。町の利点を活かして、色々な企業に来てもらい、人口増につなげてもらいたいです。

取材議員の視点 町の良さ 再発見、再認識を

人口は減少しているが、寄居町は良いところもたくさんある」と前向きな湯澤さん。改めて、町外の人に町の良さを知ってもらおう。そのための施策が必要だ。

考

町の利点を活かして
人口増に
つなげてほしい。



寄居町の人口推移

※4月1日現在
2013(H25)年からは
外国人を含む

年	人口
1990 (H2)	3万3568人
2000 (H12)	3万8156人
2010 (H22)	3万6543人
2020 (R2)	3万3141人
2025 (R7)	3万1535人

2000(H12)年がピーク。人口は減っているが、2023(R5)年~2025(R7)年は3年連続で転入が転出を上回っている。